

くすりの効かない細菌がはびこる～薬剤耐性菌の拡大を防ぐためにできること —かぜに抗生物質は効きません—

菊川市立総合病院 薬剤科 日下 豊史

かぜを引いたとき、病院を受診して抗生物質をもらっていませんか？かぜの原因はほとんどがウィルスの感染、抗生物質は“かぜ”などのウィルスによる感染症に対しては全く効きません。そればかりか、抗菌薬を不適切に使うと、抗菌薬の効かない「薬剤耐性菌」を生み出す原因になってしまいます。薬剤耐性菌の蔓延は現在世界レベルで対策が求められており、対策を怠ると 2050 年には世界で 1,000 万人の人々が薬剤耐性菌による感染症で死亡するという報告もあります。

抗生物質は体に悪さをする生物に抗うための薬で、細菌そのものから成分を取り出し発見されたものと、最初から化学的に合成されたものがあります。抗生物質は細菌に対する薬であり、ウィルスには効きません。つまり、かぜのほとんどを占めるウィルス性のかぜには、抗生物質は不要なのです。

かぜは、正確にはかぜ症候群という鼻やのどの急性炎症で起こる咳、鼻水、くしゃみなどの諸症状の総称です。症状がウィルスによるものか細菌によるものかは、医療機関の検査を受けないと判定できませんが、おおまかな目安として、発熱、のどの痛み、咳、鼻水といったかぜの諸症状が複数出ている場合はウィルス、鼻だけ、咳だけといった特定の部位のみ強い症状が出ている場合は細菌による感染の疑いが高いといわれています。ウィルスは部位を問わず増殖するのに対し、細菌は特定の部位に集中して増殖する傾向があるためです。

必要のない抗生物質を服用すると、体内にいる細菌がその抗生物質に対して耐性を獲得する可能性が高くなります、また処方された抗生物質の服用方法や服用期間を守らないと、殺しきれなかった細菌が体内に残ってしまい、その中から薬剤耐性菌が出現する可能性が高くなります。細菌が生き残るために自らの遺伝子を変異させたり、別の細菌やウィルスから薬に抵抗性のある遺伝子をもったりして、その薬が効かなくなる細菌に変化するのです。

薬剤耐性菌の拡大を防ぐために私たちができることは、

- ① 感染症をしっかり予防することで抗生物質を必要とする機会を減らし、感染症を周囲に広げないようにすること
- ② 「ウィルスによる典型的なかぜには抗生物質は不要」という認識をもつこと
- ③ 処方された抗生物質は用法・用量を守って必ず飲み切ること、以前の処方された抗生物質が残っていても、それを自己判断で飲んだり、他人にあげたりもらったりしないことです

抗生物質は限られた資源であり、適切に使用しないと有効な治療薬を失うことにつながります。一人ひとりが抗生物質に対する正しい知識を持ち、正しく使用することで、薬剤耐性菌の拡大を防止していきましょう。